

事業報告書

TAKETOMIJMA

2020 年度

REGIONAL

FOUNDATION

ANNUAL REPORT

2020



一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団



Contents

目 次

ご挨拶	• • • • • P 0 3
竹富島	• • • • • P 0 4
決算概要	• • • • • P 0 5 ~ 0 6
入島料収受実績	• • • • • P 0 7
島内賛同事業所一覧	• • • • • P 0 8
取り組み経緯	• • • • • P 0 9 ~ 1 3
活動報告（地域計画概要）	• • • • • P 1 4
（防風林の植林）	• • • • • P 1 5
（耕作放棄地の再生）	• • • • • P 1 6
（井戸の現状調査）	• • • • • P 1 7
（海浜清掃）	• • • • • P 1 8
（ゴミ箱問題の解決）	• • • • • P 1 9
（伝統的建築技術の継承）	• • • P 2 0
（外来種の駆除と処分）	• • • P 2 1
（島の現状活動のPR）	• • P 2 2 ~ 2 3
（その他）	• • • • • P 2 4
（環境省補助事業）	• • • P 2 5 ~ 2 7
広報事業	• • • • • P 2 8 ~ 3 5
組織概要	• • • • • P 3 6
寄付のお願い	• • • • • P 3 7

Greeting

ご挨拶

2020年度の一般財団法人竹富島地域自然資産財団年次報告書発刊にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

世界規模に拡大した新型コロナウイルス感染症は、日本最南端の小さな竹富島にも多大なる影響をもたらしました。2019年5月に発足したよちよち歩きの私たちの活動は、入域観光客激減による協力金の減収、三密を避けるための会合の自粛など、竹富島の取り組みにおける最大の長所である「集まって話し合う」ことが往々にして叶わず、年初に計画した幾つかが活動自粛により頓挫し、延期の憂き目にあいました。

しかし、この逆境のなか、環境省の補助事業を活用した海洋教育プログラムの策定と、漂着物のリサイクルシステムの構築を通じた新たな環境教育ツアーブル。さらに、島内観光事業者と連携した観光組織設立の模索など、未来の竹富島を構築するための第一歩を竹富島住民の皆様方と共に進めてまいりました。

自然環境保全事業と並んで私たちの活動の両輪のひとつである自然環境トラスト活動については、協力金減収という大きな足枷があるものの、竹富島住民ならびに島内外の関係者からの信頼を少しずつ構築することが現在の仕事であることと念頭に置き、トラスト事業を今後大きく活動が展開できる準備期間と考えるようにしております。

昨年度の年次報告書にも述べさせていただきましたが、当財団には、私たちや先人の思いばかりでなく、関連省庁をはじめ、竹富町、竹富島地域自然資産運営協議会、そして訪れる皆様の思いが込められています。私たちには、自然環境保全事業や自然環境トラスト活動を通じて島を再生し、次世代へバトンを繋げるという大きなシクブン（役割）がございます。

引き続き、竹富島地域自然資産地域計画に基づき、竹富島を訪れる皆様方より協力金をお預かりし、この協力金を原資に島の再生を図ってまいります。何卒ご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

一般財団法人竹富島地域自然資産財団

理事長 上勢頭 篤

Taketomijima



竹富島

竹富島は、東京から南西に約2000キロ、沖縄本島からも約400キロ離れた場所にある周囲9.2km、人口わずか360名程度の小さな小さな島です。沖縄の原風景が色濃く残る集落に美しいビーチを求めて年間約50万人もの観光客が訪れており、島では近年、オーバーユースや観光開発など多くの問題に頭を悩ませています。そこで私たちは、これらの問題の解決にむべく、2019年5月 一般財団法人 竹富島地域自然資産財団を立ち上げました。当財団では来島者から入島料を募ることで島の保全活動や財団運営を行っています。

Financial

決算概要

今期の入島料収入約590万円は前期の61.6%と大幅減となっています。
反面、竹富島入域者数の前年度比は37.8%ですので、
コロナ禍で収入自体は落ち込んでいるものの徴収率は上向いています。
次年度は更なる周知の拡大と積極的な保全活動を目指します。

貸借対照表

令和3年3月31日現在

科 目	当年度	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	2,362,089	
未収金	276,600	
流動資産合計		2,638,689
2 固定資産		
(1) 基本財産		
普通預金	3,000,000	
基本財産合計		3,000,000
(2) 特定資産		
トラスト事業資産	1,320,000	
特定資産合計		1,320,000
(3) その他固定資産		
什器備品	93,073	0
機械装置	2,714,480	
その他固定資産合計		2,807,553
固定資産合計		7,127,553
資産合計		9,766,242
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	35,755	
預り金	77,831	
未払法人税等	70,000	
流動負債合計		183,586
負債合計		183,586
III 正味財産の部		
1 指定正味財産		
拠出金	3,000,000	
寄付金	1,020,000	
指定正味財産合計		4,020,000
(うち、基本財産への充当額)		(3,000,000)
(うち、特定資産への充当額)		(1,020,000)
2 一般正味財産		
(うち、特定資産への充当額)		5,562,656
正味財産合計		(300,000)
負債及び正味財産合計		9,582,656
		9,766,242

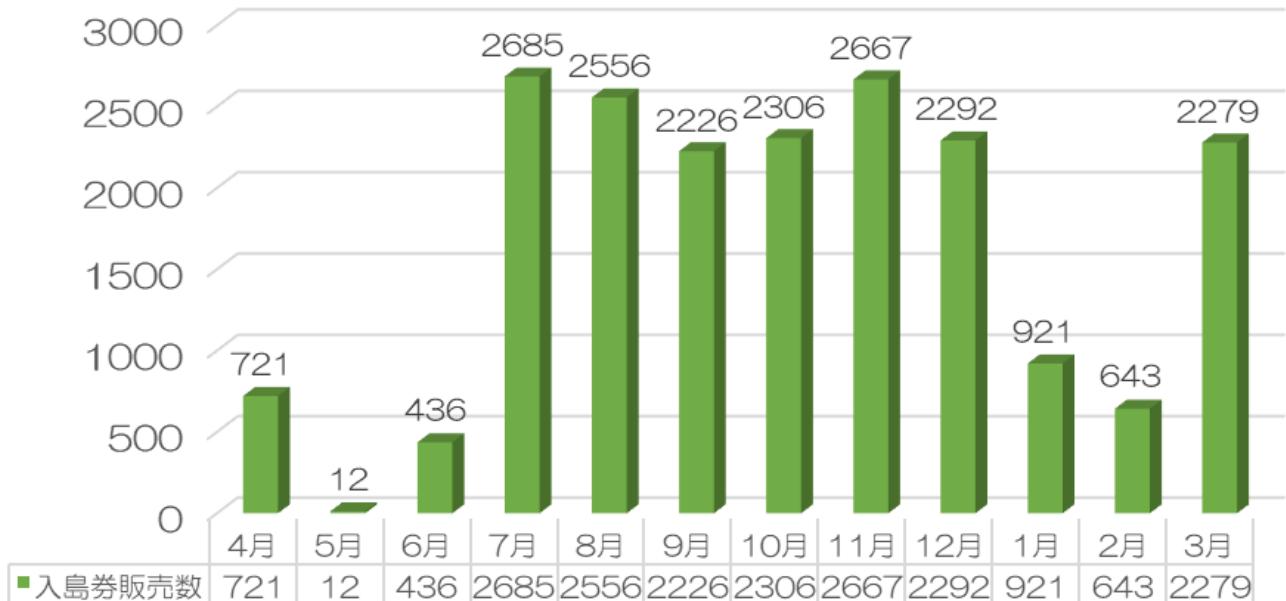
正味財産増減計算書

科目	当年度		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
入島料収入	5,923,200		
受取補助金等	7,913,000		
受取寄付金	131,096		
雑収益	2,139,046		
経常収益計		16,106,342	
(2) 経常費用			
事業費	8,089,431		
給料手当	846,651		
臨時雇賃金	57,755		
旅費交通費	416,208		
通信運搬費	17,029		
消耗什器備品費	33,950		
消耗品費	481,588		
広告宣伝費	282,901		
燃料費	26,100		
賃借料	1,352,642		
保険料	207,160		
諸謝金	190,000		
租税公課	452		
委託費	3,679,500		
新聞図書費	73,987		
支払手数料	109,046		
事務用品費	1,692		
減価償却費	118,020		
雑費	194,750		
管理費	4,839,806		
役員報酬	510,000		
給料手当	2,410,048		
賞与	360,800		
諸謝金	153,000		
法定福利費	338,289		
旅費交通費	81,820		
通信運搬費	134,662		
消耗什器備品費	65,380		
消耗品費	38,268		
広告宣伝費	4,000		
光熱水料費	98,177		
賃借料	43,500		
事務用品費	138,508		
租税公課	1,061		
接待交際費	14,606		
支払手数料	409,390		
減価償却費	35,747		
雑費	2,550		
経常費用計		12,929,237	
当期経常増減額			3,177,105
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
(2) 経常外費用			
法人税等	70,000		
法人県民税	20,000		
法人町民税	50,000		
経常外費用計	70,000		
当期経常外増減額	△ 70,000		
当期一般正味財産増減額			3,107,105
一般正味財産期首残高			2,455,551
一般正味財産期末残高			5,562,656
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額			
トラスト寄付金等	186,000		
当期指定正味財産増減額	186,000		
指定正味財産期首残高			3,834,000
指定正味財産期末残高			4,020,000
III 正味財産期末残高			9,582,656

Financial

入島料収受実績

	入域観光客数 (町民割除)	入域料(円)	収受率	寄付(円)	備考
4月	5023	216,300	14.3%	0	手売り・事業者販売、 コロナウィルス感染防止につき4/17から休業
5月	1563	3,600	0.7%	0	コロナウィルス感染防止につき休業 ※実質6/1の収受額
6月	2130	130,800	20.4%	3,000	6/1から業務再開
7月	19910	805,500	13.4%	0	7/6から手売り再開
8月	17654	766,800	14.4%	0	手売り・事業者販売
9月	19317	667,800	11.5%	28,305	手売り・事業者販売
10月	26,356	691,800	8.7%	260	手売り
11月	37,376	800,100	7.1%	220	手売り・事業者販売
12月	30,846	687,600	7.4%	0	手売り・事業者販売
1月	6,009	276,300	15.3%	103,111	手売り・事業者販売 (1/7～緊急事態宣言 ※10都府県)
2月	3,693	192,900	17.4%	102,000	手売り・事業者販売
3月	17,477	683,700	13.0%	80,200	手売り・事業者販売



Support

財団の活動は、入島料や寄付を頂いた方々に支えられています。

また、入島料の収受は島内企業や団体のご協力により行われています。

皆様の温かいご支援に対し、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

入島券販売事業所一覧

2021.02.28.現在

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA	アトリエ 五香屋
アトリエ 五香屋	民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにや	Bar 月灯り
新田観光	民宿 新田荘	星のや竹富島	アイランド	NPOたきどうん

島内賛同事業所一覧

2021.02.28.現在

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA	アトリエ 五香屋
民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにや	Bar 月灯り	新田観光
民宿 新田荘	(有) 竹富島交通	喜宝院蒐集館	NPOたきどうん	丸ハレンタサイクル
レンタサイクル竹富	ぼちサイクル	嶺本レンタサイクル	南西観光株式会社	内盛商店
海風～シーカジ～	若竹丸	やど家 たけの子	たきどうん	イナフク
とも倉	縄文や	アイランド	まつていや	竹富民芸館
民芸喫茶マキ	たるりや	そば処 竹の子	食事処 やらぼ	ガーデンあさひ
ひまわり	やまもり食堂	民宿 マキ荘	民宿 松竹荘	パーラーターミ
民宿 なかもり荘	Cago			
一日一組の宿 すかぶら	染織工房 Boo-House	HIMAWARI WORKS (株)	HaaYa nagomi-café	くちゅ& パラダイスカフェ

※島内賛同事業所とは説明会等に参加して賛同書を頂けた事業所を指す

寄付者一覧

2021.02.28.現在

サカイ マサユキ 様	ヨネモト アヤノ 様	カジ ヒロシ 様	オオハタ ノリコ 様
デザインワークエール様			

物品寄付者一覧

2021.02.28.現在

タナカ アイコ 様	クボタ アヤ 様	ウチモリ ヨシエ 様	ウチモリ アサカ 様
カメイ ヤスノブ 様	タカナ ヒロコ 様	オオヤマ ミツコ 様	イノマタ ユタカ 様
イノマタ ヒトミ 様	タナカ コウジ 様	マエモト リュウイチ 様	マキ クニオ 様
ウチモリ ショウセイ 様	オオハマ シンイチロウ 様	オオヤマ エイイチ 様	イノウエ ヒロフミ 様

Activities Results

当財団の活動は「地域自然資産法」に基づき竹富町が作成した
「竹富島地域自然資産地域計画」に沿って行われています。

2020年度取り組み総括

月	日	会議・周知広報	保全活動
4月	2・3日		外来種駆除（ウッドローズ）
	5日		防風林植林（フクギ周辺除草）
	6日		供物再耕作（島ニンニク収穫） 耕作放棄地再生（ハト麦畠除草）
	10日		防風林除草作業（フクギ周辺）
	11日		外来種駆除検証（ギンネム） 井戸調査・清掃（ナージカー）
	16日	第1回定例理事会（リモート）	
	17日	財団休業開始（新型コロナウィルスによる）	
	21日	HPにて休業報告	
	23日	券売機画面にて休業報告	
5月	4日		耕作放棄地再生（イモ・粟）
	14日	第2回定例理事会	
	18日		耕作放棄地再生（粟畠除虫）
	20・21日		防風林植林（フクギ周辺除草）
	26日	事務局会議（竹富町世界遺産推進室）	
	28日	令和元年度監査	
	30日	臨時理事会（環境省補助事業の検討）	
6月	1日	財団休業終了（新型コロナウィルスによる） HPおよび券売機通常画面に変更	
	4日		耕作放棄地再生（ハト麦畠収穫）
	10日	環境省補助事業に応募	
	16日	第3回定例理事会	外来種駆除（ウッドローズ）
	18日		耕作放棄地再生（除草作業）
	25日		海浜清掃（カンナージ浜）
	26日	令和2年度評議員会	

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
7月	3日		外来種駆除（ウッドローズ）
	7日		耕作放棄地再生（開墾作業）
	9日	八重山MaaS報告会	防風林植林（フクギ周辺除草）
	14日	第4回定例理事会	
	15日	てーどうんジャーナル.Vol3/4配布	
	21日	環境省補助事業採択決定	井戸調査・清掃（トウンナーカー）
	22日		耕作放棄地再生（開墾作業）
	24日	かりゆし館手売り再開	
	28日		井戸調査（シルミジカ-/ナ-ジカ-）
	31・1日		生態系調査（仲筋井戸）
8月	4日	運営協議会及び広報検討会（竹富町仲盛氏同席）	
	11日	券売機にアルコール自動噴霧器設置	
	12日	第5回定例理事会	防風林除草作業（フクギ周辺）
	19日	地球の歩き方「JAPAN島旅」取材	
	21日	環境省補助事業説明会（理事対象）	耕作放棄地再生（開墾作業）
	25日	臨時理事検討会	
	27日		耕作放棄地再生（開墾作業）
	28日		グック積み（事務所敷地入口）
	29日	環境省補助事業説明会（事業所代表対象）	
9月	4日	財団HP英語版公開 八重山日報取材	防風林除草作業（フクギ周辺）
	5日	臨時理事会（職員退職に伴う引継ぎ担当協議）	
	8・9日		耕作放棄地再生（開墾作業）
	10日	八重山毎日新聞取材	
	11日	環境省補助事業説明会（島内全事業所対象）	
	18日	第6回定例理事会	
	25日	第1回環境教育学習WG（環境省補助事業）	
	27日		耕作放棄地再生（開墾作業）

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
10月	2日		耕作放棄地再生（開墾作業）
	5日	観光庁補助事業申請	
	6日	運営体制協議（竹富町役場）	
	7日	財団パートナーシップ協議（星のや）	
	9日		防風林除草作業（フクギ周辺）
	12日	読売新聞取材	
	14・15日	てーどうんジャーナル.Vol5配布	外来種駆除（アメリカハマグルマ）
	17日	第1回観光協議会WG①（環境省補助事業） リトハク取材	
	18日	第1回観光協議会WG②（環境省補助事業） 観光に関するアンケート実施（各支会月例会）	耕作放棄地再生（カンナージ畑）
	21日	八重山MaaS説明会（リモート）	
	22日	第7回定例理事会	
	27日		耕作放棄地再生（カンナージ畑）
	26日	全観光事業所へアルコール自動噴霧器配布 (竹富町補助事業)	
	29日	財団公式インスタグラム開設	
	29～1日	ツーリズムEXPOジャパン出展	
11月	4日	中間監査	
	5日		自然素材の活用（キャンギ育成）
			ゴミ問題の解決（ゴミ分別）
	6日	環境教育ツア-現地視察（環境省補助事業）	海浜清掃（西桟橋）
	11日	券売機のクレジット化対応（竹富港）	防風林除草作業（フクギ周辺）
	12日	第8回定例理事会	ゴミ問題の解決（ゴミ分別）
	15日		耕作放棄地再生（カンナージ畑）
			外来種駆除（アメリカハマグルマ）
	17日	海浜清掃視察調査（環境省補助事業）	
	19日	第2回観光協議会WG（環境省補助事業）	ゴミ問題の解決（集落内ゴミ拾い）
	23日	カンナージ道整備（環境省補助事業）	
	24日		耕作放棄地再生（カンナージ畑）
	25日	海洋プラスチック成型機設置（環境省補助事業）	
	26日		外来種駆除（アメリカハマグルマ）
	27・28日		ゴミ問題の解決（集落内ゴミ拾い）

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
12月	1日		茅葺作業体験（バギナヤ）
	2日	第4回竹富島地域自然資産運営協議会	
	8日	財団パートナーシップ協議（星のや）	自然素材の活用（キャンギ育成）
	10日	第3回観光協議会WG（環境省補助事業）	
	10～12日	BSスカパー一番組口ヶ取材	
	13日	事業者向けコロナウィルス講演会 (竹富町補助事業) 祭祀に関わる供物の再耕作検討会（粟）	
	15日		防風林除草作業（フクギ周辺）
	21日	第9回定例理事会	
	22日		発泡スチロール油化プラント発送（鳩間）
	26日		供物の再耕作（カンナージ）
	27日		ゴミ問題の解決（ゴミ分別）
1月	3～5日		外来種駆除（アメリカハマグルマ）
	6日		防風林除草作業（育成苗）
	7日	財団パートナーシップ協議（星のや）	
	10日		ゴミ問題の解決（ゴミ分別）
	12日	竹富町航路事業連絡調整会議出席	
		第10回定例理事会	
	14日		屋根瓦用土づくり（旧与那国家）
	15日	アメリカハマグルマ埋め立て 地域おこし企業人交流プログラム要請 (竹富公民館連盟) 海ゴミについての環境調査 (上智大、京大、創価大教授視察)	屋根瓦用土づくり（旧与那国家）
	17日		外来種駆除（アメリカハマグルマ）
	19日	まいふなーツ-リズムテストツア-（環境省補助事業）	自然素材の活用（キャンギ育成）
	20日	観光を考える会議（環境省補助事業）	
	21日		ゴミ問題の解決（ゴミ分別）
	25日		供物の再耕作（星のや）
	28日		防風林除草作業（フクギ周辺）

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
2月	3日		耕作放棄地再生（カンナージ畠）
	7日		屋根瓦用土づくり（旧与那国家）
	9日	美ら地球・オンラインセッション（環境省補助事業）	
	10日		耕作放棄地再生（カンナージ畠）
	15日	てーどうんジャーナル.Vol6配布	
	16日		ゴミ問題の解決（ホーシミチの清掃） 耕作放棄地再生（カンナージ畠）
	18日		耕作放棄地再生（カンナージ畠）
	25日		屋根瓦用土づくり（旧与那国家） ゴミ問題の解決（ゴミ分別）
	28日	頑張る地域プロジェクトアルコール配布終了	
3月	4日	環境省補助事業完了報告書発送	
	5日	まいふなープレツアーガイド指導	
	8日	観光を考える会議 全体説明会	
	9日	石垣離島ターミナルの券売機不具合対処	
	11日	財団・星のやパートナーシップ協定締結式	自然素材の活用（キャンギ育成）
	15日		耕作放棄地再生（カンナージ畠） 海浜清掃（コンドイ浜）
	16日		ゴミ問題の解決（一周道路）
	17日	第11回定例理事会	
	25日	第5回竹富島地域自然資産運営協議会	
	29日	ブルネイ駐日大使視察 プロジェクトマナティオンライン会議	
	30日		防風林除草作業（フクギ周辺）
	31日		屋根瓦用土づくり（旧与那国家）

竹富島地域自然資産地域計画概要

目的

- 1.亜熱帯の自然と島民の暮らしが育んだ竹富島の貴重な生態系と農村集落景観を保全・再生します。
- 2.目的1を達成するための調査研究、技術の継承、人材育成を推進するとともに、必要な協力体制と財源を確保します。

事業内容

①生態系と農村集落景観の保全・再生事業

- ◆島民の暮らしによる自然利用（生活、農業、文化等）の継承・復活事業
 - ◇植生維持・再生 ◇耕作地再生 ◇水辺再生 ◇景観維持・美化
 - ◇海域再利用 ◇自主利用ルール制定・実施
- ◆外来生物駆除・島の暮らしと関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業
 - ◇外来生物駆除 ◇植生再生

②調査研究、技術継承・人材育成、協力体制構築事業

- ◆調査研究、モニタリング事業
 - ◇陸域生態系の調査研究 ◇海域・海岸生態系の調査研究
 - ◇島材の利活用方法の調査研究 ◇地域自然環境保全等事業の効果検証
- ◆技術継承・担い手育成事業
 - ◇自然環境保全活動技術継承・リーダー育成
 - ◇島材活用技術継承・リーダー育成 ◇島の自然と文化伝承者育成
- ◆周知・広報事業
 - ◇広報誌発行 ◇ホームページによる周知・広報
 - ◇注意・案内板の設置 ◇協力要請・島内案内ホスター・チラシ等の発行

Action

島民の暮らしによる自然利用
(生活、農業、文化等) の継承・復活事業

植生維持・再生

防風林の植林

目的:環境変化や経年劣化。行政サポートや住民意識の低下により御嶽の森や防風林の植林が減少し、まちなみの輪郭部を形成する防風林植林が急務であることから防風林の植林を行う。

活動:昨年度よりNPOたきどうんより譲り受けたフクギ苗の植樹および水やりや除草作業を行っている。以前は植付け初期のみ水やりをしていたが、強い日差しによる立ち枯れが散見され、現在は定期的な井戸水を活用した水やりを行っている。加えて、フクギの状況把握のため、植え付け場所毎に番号をつけて管理をしている。また種から新規の苗を発芽させポットで生育を行いながら新たな植樹場所を選定している。



耕作地再生

耕作放棄地の再生

目的：竹富島には耕作が行われなくなり放置された農地が多くある。全国的に耕作放棄地の増加による景観の悪化や生態系への影響、伝統農法の消失が問題視されている。さらに竹富島では祭祀に関わる供物が島内で生産できなくなってきたことなどが懸念されており、この状況を打破するため2019年より活動を開始した。

活動：昨年度に引き続き、島の古老に習いながら、「島ニンニク」「粟」「芋」「麦」の種まき、育成、収穫を行っている。また、今年度より耕作放棄地の拡大作業に取り組んでいる。竹富島特有のサンゴ石の多さに悪戦苦闘を続けながら耕作機やトラクターなどの重機を利用しながら作業を行っている。



Action

水辺再生

井戸の現状調査

目的:竹富島には歴史を物語る多くのカー（井戸）がある。しかし現状、木の枝や雑草が伸び荒れている上に、壊れたポンプ、サンカ（縁）、コンクリの床、落下防止の蓋などが劣化して見苦しい状態になっているところが多く見られ、調査と修理を目的とする。

活動: 今年度は島内井戸の状況や調査や報告書の作成に加え、花城御嶽氏子と作業ボランティアと共に花城井戸の底浚いや石碑周りの清掃や石段の補修を行った。また井戸に生息する生態系調査なども開始。手始めに安定した水量がある仲筋井戸（ナージカ）の調査から開始。想定された生物多様性からは、少し単純すぎる生物相の結果となつたが、竹富島のなかで貴重な限られた淡水域となる生物環境を保全してゆくためにも、次年度以降も井戸の現状調査と合わせて生態系調査を行う。



景観維持・美化

海浜清掃

目的:竹富島は3つの集落に分かれている。それぞれの集落が担当する海浜エリアがあり、定期的な清掃作業を行っているが、間に合わないほどの海洋漂着ゴミが流れついている。景観だけでなく生物や環境への負荷を軽減するためにも海浜清掃を行う。

活動: 今年度は島の将来を担う小学生とともに竹富島に流れ着く海洋ゴミについて勉強した。商品パッケージに記されたバーコードからゴミの生産地を調査できることから、バーコードが残りやすいペットボトルを中心に拾っていき、日本、中国、韓国、東南アジアと様々な場所からの漂着ゴミを確認した。海洋ゴミを完全に断つのは難しいが、次年度以降も島に合った効率的な方法で海浜清掃を続けていく。



Action

景観維持・美化

ゴミ問題の解決

目的:竹富島ではゴミ処理施設の対応能力オーバーという問題から、ほとんどゴミ箱の設置がない。これまで来島者の方々へはゴミの持ち帰りを推奨していたが、ポイ捨てが散見される上、ゴミを拾った方が捨てる場所もないという問題点もありその解消のためゴミ箱の設置と環境保全の啓蒙を行う。

活動:昨年度に引き続き、竹富港に設置されたゴミ箱の管理、ゴミの分別を行っている。今年度から、出たごみの種類別に集計したデータ統計を行い、次年度以降の活動に役立っていく予定である。今年は観光客がボランティアで漂着ゴミを収集しゴミ箱の横に置いてくることも散見され、今までNPOたきどうんが引き取って分別していたが、今年度からは財団でその役割を担っている。



技術継承・担い手育成事業

島材活用技術継承・リーダー育成

伝統的建築技術の継承

目的:竹富島固有の町並みを生み出す伝統的な建物など。その建築技術を新しい世代に正確に継承する。

活動:国の重要文化財の旧与那国家住宅の修復工事の一環として、瓦ぶきに使用する土作りに参加。地面に穴を掘り、土と藁（古い畳）を水をかけながら混ぜ込んでいき泥沼をつくる。半年かけて藁が分解されることで土の良い繋ぎとなり、時間が経っても雨漏りしないしっかりと瓦を固定してくれる良質な土が出来上がる。

また、伝統的建築物「場儀納屋」茅葺き屋根の葺き替え工事の体験も行った。



Action

外来生物駆除・島の暮らしと
関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業

外来生物駆除

外来種の駆除と処分

目的: ギンネムをはじめとする外来種を伐採などの方法により、島の暮らしと関わりの深い植物の減少を防ぐ。

活動: 今年度は環境省が定めるパークボランティア活動によるボタンウキクサの駆除方法の勉強から始まり、御嶽の森を覆いつくすバラアサガオの駆除、ギンネムの駆除テスト、環境省によって緊急対策外来種として指定されているアメリカハマグルマの駆除と幅広い活動となった。駆除後の経過観察含め、次年度以降の継続活動とする。



周知・広報事業

協力要請・島内案内ホ。スター・チラシ等の発行

島の現状活動のPR①

目的：来島者や島民が活動への理解を深められるよう、様々なメディアで発信を行う。

活動：昨年度同様、返礼品の作成や島内季刊誌の発行を継続的に行った。また、10月には世界最大級の観光総合展示会であるツーリズムEXPOジャパンに出展。国内外から285の企業・団体が参加。会期中2万4千人以上が来場し、「旅マ工」での周知を徹底するため各観光関連業者約30社と商談。多くの来場者にも財団の活動を広くPRした。またEXPO会期に合わせて新たな入島料パンフレットも作成し、島内の入島券販売協力店にも設置することで周知拡大に利用している。



Action

ホームページによる周知・広報

島の現状活動のPR②

目的：定期的な更新でホームページを見たくなるような仕組みづくりを目指す。また日本語以外での多言語表記を行う。さらにはホームページ以外の媒体での発信も図る。

活動：財団ホームページ内で英語版の開設、入島料収受額や収支報告含む年次報告書公開を行った。また観覧者数増加を目指し島の生き物紹介ページの増設や活動リポートの定期的な更新をしている。

ホームページ以外では財団インスタグラムを開設し、日々の活動報告や返礼品、島の生態系紹介などを定期的に行っている。

The image is a collage of nine photographs from the Instagram account 'taketomijima_zaidan'. The top row includes a hand reaching into soil, a close-up of a red flower, and a large, dark purple crab. The middle row features a firefly with its wings spread, a pile of dried, brownish plant material, and a circular logo for 'みーほーじー' (Me-ho-ji) which includes a pink flamingo and Japanese text. The bottom row shows the interior of a traditional wooden restaurant and a close-up of a person's hands working with bamboo or reeds.

その他

星のや竹富島パートナーシップ協定

竹富島全体のビジョンに基づく、地域における自然環境と伝統文化の保全を中心に活動・実施機能を有する【一般財団法人竹富島地域自然資産財団】と、日本全国はもとより世界への発信力と影響力を持つ【星のや竹富島】は、竹富島をSDGs先進地域としてさらに飛躍させ、地域経済がより一層活性化するよう、次の取り組みを協働で実施することを目的とする協定。この協定は環境省による地域自然資産法制定による取り組みの一環として行われる。

令和3年3月11日に「竹富島地域自然資産財団と星のや竹富島とのパートナーシップ協定締結式」が行われた。協定項目は以下の6つ。

- ① 星のや竹富島と竹富島地域自然資産財団が開発したツアーやプランを販売
- ② 海洋漂着ごみ問題の解決に向けたアクティビティの販売
- ③ 伝統作物の復元と特産品化への技術協力
- ④ 伝統文化の保全と保存
- ⑤ 同財団が実施する保全活動（アピール24）に即した魅力造成
- ⑥ 上記活動の島外へのPR



Action

環境省補助事業

～国立・国定公園への誘客の推進と収束までの間の地域の雇用の維持・確保事業費等補助金～

名 称

滞在型プログラムによる新たな観光の開発・推進事業
～まいふなーツーリズムへの道～

目 的

竹富島には生物文化多様性を持続的に維持する仕組みが伝統的に備わっている。その厚みのある魅力が、沖縄本土復帰以降多くの人々を観光で迎えてきた。しかし、団体観光から、近年の個人観光（FIT）への転換が遅れており、オーバーユースによる島の資源の疲弊が問題となると共に、経済効果も十分に享受できていないことが心配される。

そこで当プロジェクトでは、島のお年寄りに認められる良い子島言葉「まいふなー」を用いた「まいふなーツーリズム」の実現の第一歩として、以下の2つに取り組む。

1. 自然環境教育プログラムの開発とガイド養成

2. まいふなーツーリズム実現のための体制づくりの機運醸成

これらの取り組みは観光と環境を結ぶ循環システムの構築を目指すものである。つまり、「まいふなーツーリズム」とは、前述した現状の観光に関する課題を解決し、竹富島らしい生物文化多様性を維持する環境保全型のサステイナブル・ツーリズムのことである。言い換えると、竹富島の未来に責任をもち、還元をする「観光客や地域住民 = まいふなー」によるサステイナブルな資源活用と再投資の仕組みづくりが重要と考える。

さらに本プロジェクトは、竹富島において、コロナ禍に感染拡大防止に努めながらいかに観光を行うかについて検討するとともに、コロナ禍に苦しむ地域住民への経済的な支援になればとの意味合いも持つ。

環境省補助事業

自然環境教育プログラムの開発とガイド養成

ワーキンググループによる検討で、まいふなープログラムのテーマとガイドツアーの地域を決定。ガイド養成のためファムトリップ実施前にガイド養成マニュアル案を作成し、ファムトリップ実施後に見直し、ツアーの安全面や自然・生物・生態系についてのエピソードや、ガイドツアーとしての質を確保するガイドマニュアルを作成した。

また島外企業に協力してもらい海洋プラスチック再生方法のレクチャーを受け、1月には参加者を20名ほど集めて「竹富島海域の動物・植物/歴史・伝承ツアー」および「海洋プラスチック再生ツアー」のファムトリップを行った。

次年度以降に今回学んだプログラムを竹富島の新しい環境教育ツアーとしてパッケージ化し商品化することを目指していく。



Action

環境省補助事業

まいふなーツーリズム実現のための体制づくりの機運醸成

世界中に猛威をふるっている新型コロナウイルスの感染拡大は、竹富島の事業者及び島民への経済・社会側面での多大な影響をもたらしている一方で、これまで竹富島において様々な問題を生み出していた“量で稼ぐの観光”も一時的にストップする機会となった。

2019年度に島内有志によって「竹富島の観光を考える会議」という観光の課題解決に向けた議論と組織づくりのための集会が立ち上がっていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動を停止していた。しかし、本事業が今後の竹富島観光のあり方を検討するきっかけとなり、「竹富島観光協議会ワーキング」を発足し、ワーキングを実施した。また、今後の竹富島の観光のあり方の検討材料として、島民向けの観光に対する意識調査を行い、新組織設立に向けた規約案やコロナ対策マニュアル、公式HP構成案などを作成した。



Public Relations

財団事業案内（改訂版）

OUR PURPOSE

事業目的

この法人は、「竹富島事業」を実行し、竹富島地域自然資源保護区画ににおける自然資源の保護及び活用の促進のための活動を、島民の心象の健全な発達及び島郷風土・文化の保全に寄り、地域社会へ貢献することを目的とする。

- ◎竹富島の環境を整備及び造成、海岸生態系にむけたる自然復旧、海岸生態系及び島内生態系の保護、
- ◎竹富島の自然資源及び文化、島民の心象の健全な発達及び自然環境、自然保護、自然文化、農業文化にむけたる自然復旧、農地の整備等に対する活動継続事業、
- ◎竹富島地域自然資源保護区画に対する人材育成事業、
- ◎竹富島地域自然資源保護区画に対する監視調査及び防災体制構築事業、
- ◎竹富島の環境を整備及び造成する工程事業、
- ◎竹富島の環境を整備及び造成する工程事業、
- ◎竹富島の環境を整備及び造成する工程事業、
- ◎その他、この法人の目的を達するために必要な事業、

STAFF

財団役員・評議員一覧 第50回定期

理事長 上野 順

副理長 佐藤 勝也

会務課長 水野 重和

理事 上野 実大

上野 順

上野 順

上野 順

上野 順

内閣府

大津 住一郎

宮本 由苗子

評議員 正原 仁志

内閣府

大山 美一

井伊 健吾

井伊 健吾

監事 井伊 健吾

Public Relations

入島料案内リーフレット（120角/三つ折り）



(2020.10~)

Public Relations

まいふなーツーリズムリーフレット① (120角/二つ折り)

一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団

お問合せ

一般財団法人竹富島地域自然資産財団
〒907-1101
沖縄県八重山郡竹富町字竹富 207-1

TEL:0980-85-2800
FAX:0980-85-2801
MAIL:info@taketomijima.okinawa

新しい環境教育ツアー
「まいふなーツーリズム」が
まもなく竹富島ではじまります。

Project

竹富島は人口350名のちいさな島。
このちいさな島はオーバーツーリズムや
観光開発の影響で長い間、頭を悩ませてきました。
そこで竹富島の人たちは
いつの間にか島が忘れてしまったものを取り戻そうと
島の人が島の魅力を自ら伝える
新しい環境教育ツアー
「まいふなーツーリズム」を開発しています。
「まいふなーツーリズム」の「まいふなー」とは
島コトバで「お利口さん」の意味。

TourPlan (準備中)

ビーチクリーン	薬草ツアー	魚垣ツアー
世界的な話題である 海洋ゴミ問題を学ぶ	自生する昔ながらの 薬草の効能を学ぶ	復元させた伝統漁法 「魚垣」を観察する
伝統耕作ツアー	民話神話ツアー	蛍ツアー
島の伝統的な 耕作方法を学ぶ	島に伝わる民話や 神話のルーツを辿る	日本最大級の「オオミヤマホタル」を観察する

ツアープラン版
(2020.10~)

Public Relations

まいふなーツーリズムリーフレット② (120角/二つ折り)

一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団

まいふなー
竹富島
ツーリズム
Maifuna-Tourism

島が一体となって発信する
新型コロナウイルス対策
まもなく竹富島ではじまります。

お問合せ

TEL:0980-85-2800
FAX:0980-85-2801
MAIL:info@taketomijima.okinawa

Project

当たり前の日常が奪われた2020年。
人口たった350名のちいさな島の生活は
大きな変化を迫られました。
先の見えないコロナ禍で
どうすれば観光で訪れる方々の
不安に寄り添えるのか。
どうすれば島民の不安を解消できるのか。
島が一体となって安心安全な旅を発信できる
「まいふなーツーリズム」を開発しています。

「まいふなーツーリズム」の「まいふなー」とは
島コトバで「お利口さん」の意味。

「covid-19」Measure

- 竹富島ガイドラインの作成
- 施設内の定期消毒
- スタッフと来島者の発熱管理
- 飛沫防止設備の設置
- こまめな換気対策
- マスク着用の励行
- ソーシャルディスタンスの徹底
- 手洗いうがい
アルコール消毒

竹富島一体での感染対策を観光客と住民に
分りやすく発信する準備を整えています

コロナ対策版
(2020.10~)

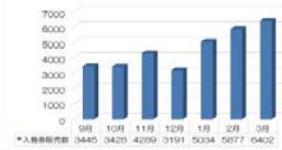
Public Relations

島内季刊紙（B4）

05 令和元年度入島料収受実績

2019年度の入島料収受実績は下記のようになります。4月以降の収受実績は次回で報告させていただきますが新型コロナウイルスの影響でかなり厳しい状況となっています。収支UPのため、ご協力をよろしくお願いします。

入島券販売数



お知らせ

財団ホームページより令和元年度の年次報告書をご覧いただけます。財団一年目の活動報告や決算概要、島内賃同事業所／入島券販賣部取扱事業所一覽などご覧いただけます。財団のホームページより「財團について」→「最下部「プレスリリース」からダウンロードできますので是非ご覧ください。

竹富島 財団



一般社団法人
竹富島地域自然資源財団
〒907-1101
沖縄県八重山郡竹富町字竹富707-1
TEL:0980-83-2800 FAX:0980-85-2801
MAIL:info@takehijima-jima.or.jp

(2020.7月発行)

てーどうん JOURNAL

2020.6月 VOL.03-04



01 新年度を迎えて

昨年、5月30日に一般財団法人竹富島地域自然資源財団を設立。そして、9月1日開道省令が改め竹富島島民のご協力をうけて入島料の収受開始をしました。専売機での収受開始などのどれだけの方が入島料をお支払いしていただけたのか、非常に心配でありますけれどもPRの効果もありスクーター良く胸をなでおろしました。しかし施設だけでの収受では課題がありますのでアピールと手作り、島の緑光園業事務店による面接販賣を始め、収受率が少しづつ伸びはじめ、これまで標準保全事業もできると感じ切っていたのに、昔の手作業がするのにノイライブルの溝に苦戦しまれ、入島料の収益だけではなく國や他の諸課税事務を受け事務費を支払しながら活動を行なうとい考へているところです。財團理事、職員、島内おじさん協力員は、今まで一緒に島の自然を守り10年後も変わらぬ島の環境を目指してきましたので、何卒ご指導ご協力を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。理事長 上野義一

03 粟とハトムギの収穫

昨年に種植されました後の収穫。ラシリと畠たくなれた地先を刈り取り、穀本をまとめて束ねて天日干します。ありがたいことに農家の方で、販売される量として使用してもらえることになりました。また、ハトムギも同じ時期に収穫できました。



04 花城井戸の調査と補修

花城御厨子氏と作業ボランティアの皆さんと共に花城井戸周辺の生態系調査と除草作業、石碑旁の清掃や石碑の補修を行いました。また、倒れたときに井戸の蓋を落さないように行ったところ水の溝きだしも確認できました。



02 海洋ゴミ学習

海洋ゴミについて、島の将来を担う小学生とともに勉強しました。ゴミが海を生きやすい北洋の海仲で収集。数十分の収集でたくさんベットボトルが集まりました。ハーコードから生産地調査を行ったところ半数が日本、残りが中国と韓国、極少数が東南アジアという結果を得ることができました。今後も島に合った効率的な海洋ゴミ問題の解決を模索し進めていきます。

05 バラアサガオの駆除

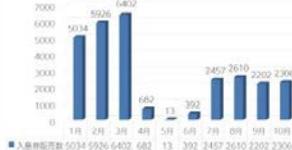
以前から調査をしていた外来種のバラアサガオ。樹幹の森を覆いつぶす枯らす跡があるということで駆除作業を行いました。ツルをたどり、根元近くで切り。根元には周りの植物に影響が少ないことを確認してあると機械タイプの除草器を打ち込むことで徹底的な駆除を行いました。



07 1月～10月入島料収受実績

2019年1～10月の入島料収受実績は下記のようになります。ご覧いただいた通り新型コロナウイルスの影響で4月以降の収受実績はとても厳しいものとなっています。今後とも収支UPのため、ご協力をよろしくお願いします。

入島券販売数



お知らせ

財団公式インスタグラムを開設いたしました。日々の財團の活動を発信していくまでの日々のQ&AコードよりQRコードをお読みください。またホームページ島内二つ目に掲載している生き立ちたちの一部を紹介するページや海外のお客様用に英語バージョンを開設しております。お問い合わせの際は是非ご覧ください。

竹富島 財団



一般社団法人
竹富島地域自然資源財団
〒907-1101
沖縄県八重山郡竹富町字竹富707-1
TEL:0980-83-2800 FAX:0980-85-2801
MAIL:info@takehijima-jima.or.jp

(2020.10月発行)

てーどうん JOURNAL

2020.10月 VOL.05



01 ツーリズム EXPO ジャパン

宮古市にある沖縄コンベンションセンターで10月29日～11月1日に開催された世界最大級の観光交流展示会であるツーリズム EXPO ジャパンに出展しました。沖縄で開催されるこのイベントは、国内外から2万5千の企業・団体が参加。新規コロナウイルス対策として全予約制で実施。29・30日は「黒界日」で観光連携事業・団体・旅行会社が発表。31日と11月は事前登録をして一般観客が来場し、会場は2万4千人以上が来場しました。財團は、見ように入島料の収益が上がらない現状をみて、「真マ工」での開拓地を宣伝するための各種観光業者等30社に講演を行ない、島内特有している観光の魅力を伝えすることに出席しました。また、いくつかのディスプレイで取材をしてきた島の歴史や保存活動の内容などを紹介。また、島の特産品の紹介の際にハーバードポートにお越し下さいました。そのお礼として「黒豆祭」「島のおり祭」「島のタヌクッカー」などを販売してブレンドさせていただきました。このコロナ禍の中でも人々の懇意を感じられる非常に有意義な展示会となりました。



03 ナージカーの生態系調査



仲路井の生態系調査を行いました。調査井の水深は1m、タモやウカニなどを使用してこがれ(ウカニ)、アリ付(アリ付)、(網封)の3種類を捕獲することできました。島の名などで貴重な淡水魚となるウカニやタモなどが見つかりました。仲路井の生態系調査を行っていきます。



緊急防災外来種として指定されているアメリカンマグマグマ、世界の侵略的外来種ワニコット100にも確定して島の生態系に大きな影響を及ぼす可能性のある種として早期の対策が必要となっています。事前に調査と実験を行い、今後は定期的な駆除作業を試行しました。

02 環境省補助事業開始

環境省の「令和2年度（補正予算）国立・国定公園での渓谷の渓谷事業費及び設立・固定化公園、温泉地でのワーキングツップの運営事業費」での採択を受け、財团では「まひるツーリズムシステム」と組合して新たな「環境教育ツアーア」を「観光協議会」設立に向けた取り組みを開始しました。「環境教育ツアーア」では島人の島の環境の力を伝える新たな環境ツアーガイドに取り組んでいます。観光協議会では島内環境事業者が一歩目の目標とし、日々実行指標を経て、もじ実績を実施します。本事業における沖中経済は財團計50%、事務協定でご紹介します。



05 もち麦植付け



トランクを利用して耕作放棄地の再利用や耕作地に作付による耕作放棄への対応で、もち麦播種を実施します。播種の後に施肥剤の三輪びを押し、播種を繰り返しました。今後も様々な作物を植付ける予定です。



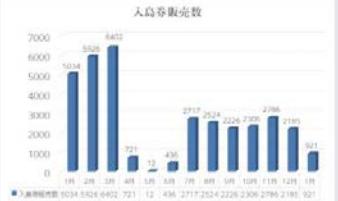
竹富島の補助事業である「令和2年度農業振興地防護プロジェクト（活動事業）」の採択・交付を受け、島内すべての観光事業者に非接触型消毒用アルコール・ディスペンサーの配布を行いました。（被用所のアルコールはまちなみ個室入口に設置しております）

Public Relations

島内季刊紙（B4）

01/ 2020年入島料収受実績

2020年1月ーの入島料収受実績は下記のようになります。7月頃からわずかに増えはじめた観光客ですが、再び発生された緊急事態宣言の影響で2021年1月からは大変厳しい収受実績となっております。今後ともご協力をよろしくお願いします。



お知らせ

財団公式ホームページでは竹富島と一緒に暮らしている生き物たちを紹介するページを開設いたしました。
植物や動物の説明だけでなく島の生き物の鳴き声を聞けるコーナーもご利用しております。

お時間のある時に是非ご覧ください。

竹富島 附録

（2021.2月発行）

竹富島地域自然資源財團 季刊誌

てーどうん JOURNAL

2021年6月 VOL.06



01 瓦葺き替え用土づくり

竹富島での重要な文化財として2007年に登録された旧与那国家住宅、現在その一部の修理工事が行われているのですが、瓦葺きに使用する土作りに参加しました。以前は瓦の瓦を買えると決まった家の、各自土作りを行なって半年から1年間かけて使用していたそうです。今回も半年先の使用を目指して準備を始めました。地面に50cmほどの穴を掘り、土と糞を水をかけながら混ぜ込みます。糞は馬糞上、古い藁で腐ったものを使用し、糞に無い材料で土をつくる系やビニール、発泡スチロールなどはどののなかで分離されないので丁寧に取り除きます。みんなで一緒に作ることになり、更にみんなでなくなりと土をまくしていきます。これからもまた一緒に裸足で泥び好みをする必要がありますが、半年かけて糞が分解されることで土の良い質となります。時間が経つと雨漏りしないしっかりとした瓦を固定してくれる鉄筋が出来上がります。



竹富島では、そんな
あまり便利とは言え
自然体で暮らせる心

私たちは人助けで、J
忘れてしまったもの

02 新環境教育ツアーテスト

環境者補助事業の一環で新しい環境教育ツアーアクティビティ「まいるなワークス」のファムトリップ（ファストツアー）を開催しました。3回にわたり行われたワーキンググループによる桃狩り、ツアーマンとガイド地域を決定、また島外企業に協力してもらい海藻プランチック再生方法のレクチャーを受けました。初めてのファムトリップでは参加者を20名ほど集めて「竹富島海域の動植物・植物/歴史・伝承ツアーオーおよび海藻プランチック再生ツアーアクティビティ」のファムトリップを行いました。次年度は今回学んだ内容を竹富島の新しいツアープログラムとして検討していきます。



03 星のや竹富島と 伝統耕作で協力



星のや竹富島の農地にある畠にて
竹富島の伝統耕作物である粟とタカヒ
ビ、モチヒビの3種類の種子を共同
で実施しました。今後も星のや竹富島
と財団では様々な活動で協力し、特に
竹富島の環境保全と文化の継承を実施
していきます。

04 粟と島ニンニク の植え付け



今年も竹富島の原産で利用される萬
ど二ニクの種子を付けていました。
前回の栗は万葉集の種子はバラギで行いましたが、粟とタカヒビの対応はさす
等から今回は前に既に沿って萬ど二ニク
としましました。最後にマニード表面を撒
で、うっらうら手で撒くようにしました。

05 発泡スチロール リサイクル



06 苗の育成 (クギーキヤンガ)



財団事務所前で育成しているクギ
とキヤンガの苗たち。扱いやすいの
なで育っています。竹富島では若いと
表現される季節ですが、気温は低くて
も10℃前後。一緒に雑草をしつづけ、環境保全
事業で活躍する日を待っています。

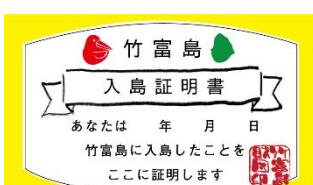
Public Relations

事業所オリジナルうつぐみチケット（入島券）



星のや竹富島
(91*55)

内盛莊
(91*55)



NPOたきどうん
(91*55)

新田觀光
(91*55)

Public Relations

新規返礼品

竹富島方言ステッカー【改訂版】

(2020.04~)



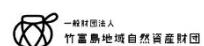
入島料へのご協力ありがとうございます



ホームページ

Instagram

入島料を使用した保全活動の様子は
財団InstagramやHPよりご覧ください



サンのお守り
(2020.04~)



新草玩具
(2020.07~)



この他にも島民の皆様から
多数の返礼品を頂いております

組織概要

名称

一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

設立

2019年5月30日

所在地

〒907-1101

沖縄県八重山郡竹富町竹富207-1

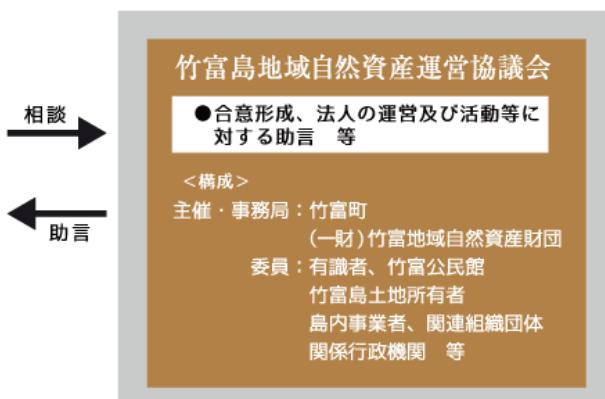
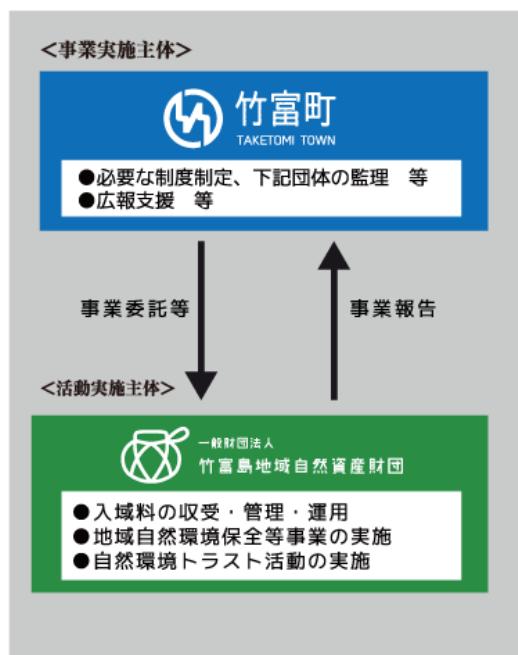
目的

この法人は、『竹富島憲章』を遵守し、竹富島地域自然資産保全区域における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進のために活動し、島民の心身の健全な発達及び自然環境と文化の保全に寄与し、地域社会へ貢献することを目的とする。

役員

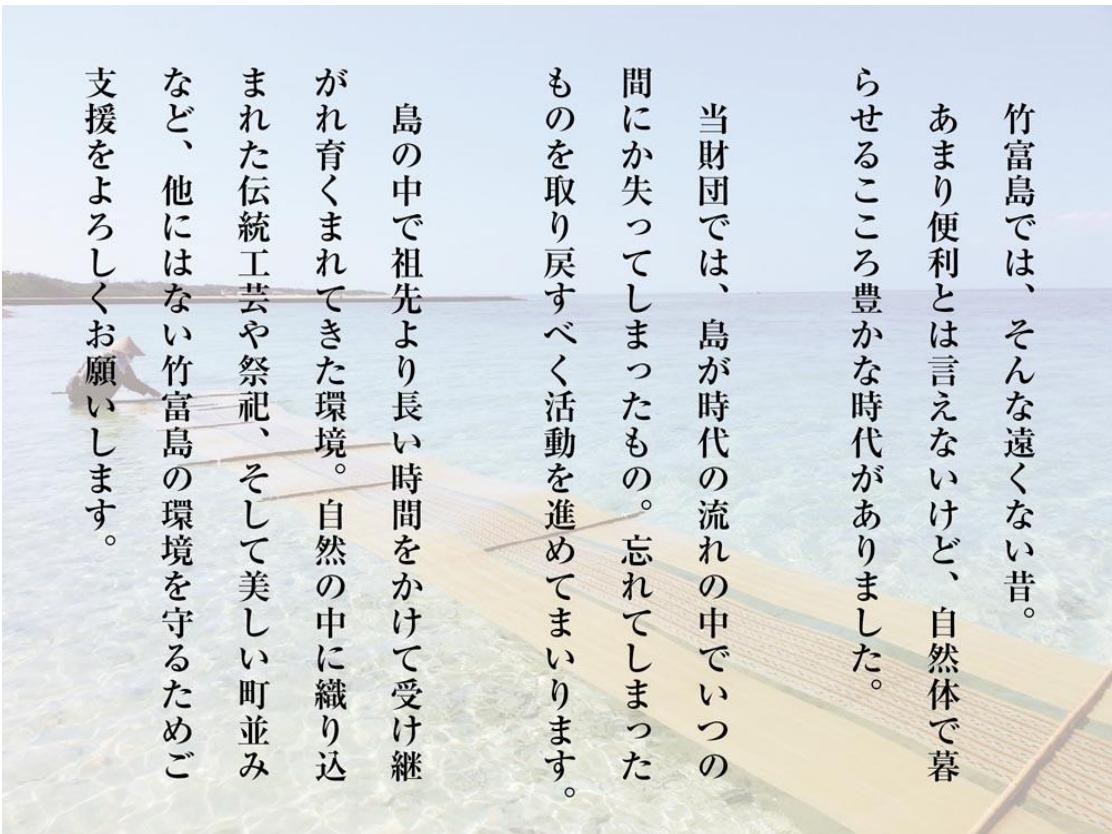
※五十音順

- 理事長：上勢頭 篤
- 常務理事：市瀬 健治／水野 景敬
- 理事：井上 寛文／上勢頭 輝／上勢頭 巧
上勢頭立人／内盛 薫／大浜信一郎
前本由貴子
- 評議員：内盛 正聖／内盛 良枝／大山 榮一
島仲 彌喜／野原 健
- 監事：阿佐伊 拓／大政司



行政と住民と来島者が一緒にになって竹富島の保全活動に取り組んでいます

Donation



竹富島では、そんな遠くない昔。

あまり便利とは言えないけど、自然体で暮らせるこころ豊かな時代がありました。

当財団では、島が時代の流れの中での間にか失つてしまつたもの。忘れてしまつたものを取り戻すべく活動を進めてまいります。

島の中で祖先より長い時間をかけて受け継がれ育くまってきた環境。自然の中に織り込まれた伝統工芸や祭祀、そして美しい町並みなど、他にはない竹富島の環境を守るためご支援をよろしくお願ひします。

竹富島の環境保全活動のために 寄付をお願いします

寄付の方法

下記申し込みフォームまたは、寄付申込書でお申し込み後、当財団指定の銀行までお振込をお願いいたします

寄付申し込みフォーム

<https://taketomijima.okinawa/dons/donsform>

FAXまたは郵送での申し込み

<https://taketomijima.okinawa/wp/media/format.pdf>

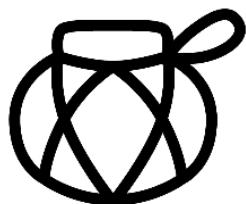
お支払い方法

銀行名 琉球銀行 支店名 [店番号] 八重山支店 [703]

口座種別／口座番号 普通預金／1020723

口座名義

サイ) タケトミジマチイキシゼンサンザイダン
一般財団法人 竹富島地域自然資産財団



一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団

ANNUAL REPORT

2020年度
年次報告書